

保護者が「すべきこと」 「してはいけないこと」

保護者の協力が不可欠とはいっても、チーム（団体）全体を見渡す指導者にとっては、「ありがたい協力」もあれば、「迷惑な協力」もあるだろう。そこでここでは、パート1に引き続き、スポーツペアレックスジャパンの村田代表に、保護者が「すべきこと」「してはいけないこと」について伺った。指導者と保護者との「コミュニケーションの材料として、ぜひ参考にさせていただきたい。

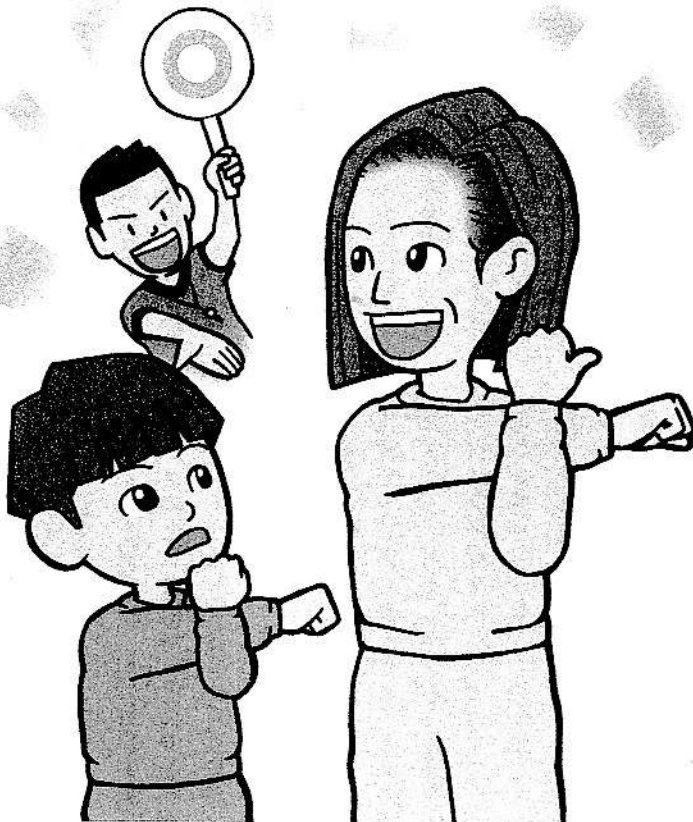
スポーツペアレックスの理想像

海外、とくにアメリカでは、日本に比べて「アスレティックトレーナー」が身近な存在です。そうしたことから、アメリカの保護者は脳震盪や熱中症の怖さをよく知っていますし、スポーツ医学に関する知識も、日本の保護者に比べ豊富です。雑誌や書籍など、それらの情報を得る環境も整っています。パート1でも触れたとおり、スポーツをする子どもをもつ「スポーツペアレックス」という言葉も、日本とは比較にならないほど社会に浸透しています。チーム（団体）とどう関わっていくべ

きか、指導者にどう対応していくかということについて、非常に進歩した考え方ももっています。裏を返せば、それほど関心の高いテーマであり、日本の保護者と同様に悩みを抱えている人が多いともいえます。

左ページに、保護者の心構えについて整理してみました。

これらを踏まえておけば、保護者が子どもにできることは自ずと決まってきます。3食バランスのとれた食事をきちんと食べさせる、しっかりと睡眠をとらせる、ケガをしたら応急手当をして病院に連れていくなど、健全な生活を送るためのサポートと、時間やル



日本体育協会発行
情報誌「Sports Japan」より